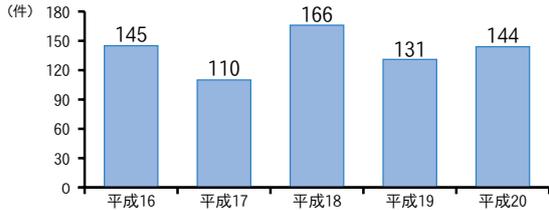




放火火災

被害に遭わ

●放火火災件数の年別推移（市内）

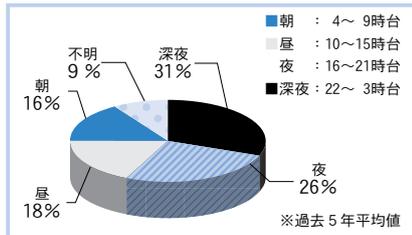


放火火災は年間約140件（過去5年平均）も発生しており、常に出火原因の上位にあります。

市内では、今年1月から9月末までに519件の火災が発生しています。そのうち放火による火災が125件と出火原因の中で最も多く、昨年同時期と比べ23件も増加しています。

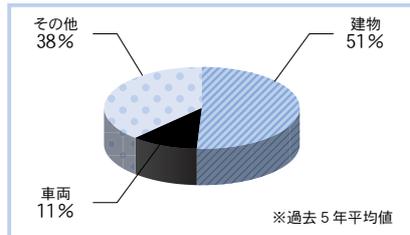
ここでご紹介する予防策を、ぜひ今すぐご家庭でも実践してみてください。日ごろから放火予防の意識を高め、家族、地域みんなで「放火されない環境づくり」に取り組みましょう。

●時間帯別発生状況



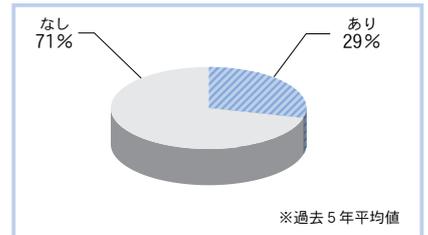
放火火災の多くは、人目につきにくい夜、特に深夜に発生しています。

●場所別発生状況



その他～敷地内に置かれた物品、ごみステーションのごみなどが含まれます。

●施錠状況



放火された建物や車のうち、約7割が施錠されていませんでした。

設置はお済みですか？

住宅用火災警報器

～あなたの命を守ります！～

住宅火災で死に至った原因としては、「逃げ遅れ」の割合が非常に高く、住宅火災の死者の半数以上が65歳以上のお年寄りです。

このことから火災の発生を早期に発見し、逃げ遅れによる死者を防ぐため、平成20年6月1日から、新築住宅だけでなく、今お住まいの住宅にも住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

<購入先> ホームセンターや消防設備を取り扱っている会社などで販売されています。新築、改築の際には、ハウスメーカーや施工会社にもご相談を。ガス事業者では、販売、リースを行っている会社もあります。

◎町内会など地域単位で住宅用火災警報器を共同購入しませんか？

共同購入することにより、比較的安価に購入することができ、また、悪質訪問販売の対策にも大変効果的です。ご相談は、お近くの消防署へ。



放火火災を防ぐポイント

- 家の周りに燃えやすい物を置かない。
- マンションやアパートの廊下や階段に物を置かない。
- ごみは決められた日の朝に出す。
- 物置や車庫、駐車場の車には必ず鍵を掛け、日ごろから戸締まりを確認する。
- 普段から町内会や隣近所と話し合うなど、協力して放火されない環境をつくる。



その他の出火原因と予防策

こんろ	たばこ	ストーブ
<input type="checkbox"/> 電話や来客の際は必ず火を消す。	<input type="checkbox"/> 必ず灰皿のあるところで吸う。	<input type="checkbox"/> 周囲や真上に洗濯物を干さない。
<input type="checkbox"/> 周囲に燃えやすい物を置かない。	<input type="checkbox"/> 吸い殻は水を掛けてから捨てる。	<input type="checkbox"/> 外出時や給油時は必ず火を消す。
<input type="checkbox"/> 古いゴム管は早く取り換える。	<input type="checkbox"/> 寝たばこは絶対にしない。	<input type="checkbox"/> 定期点検、清掃をし、正しく使う。
火遊び	電気	車両・その他
<input type="checkbox"/> 子どもの手の届くところにライターなどを置かない。	<input type="checkbox"/> 使用後はプラグを抜く。	<input type="checkbox"/> 車両の定期点検、整備をする。
<input type="checkbox"/> 花火は水を用意し必ず大人と行う。	<input type="checkbox"/> コンセントにほこりをためない。	<input type="checkbox"/> 落雪による配管折れなどに注意。
<input type="checkbox"/> 普段から火の恐ろしさを教える。	<input type="checkbox"/> コードを束ねたりたこ足配線はしない。	<input type="checkbox"/> スプレー缶は中身を完全に放出してから廃棄する。

お問い合わせ
中央消防署予防課
(南4西10) ☎215-2120